

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年4月27日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200791		
法人名	有限会社咲楽		
事業所名	グループホーム井口・楽々苑		
所在地	広島市西区井口4丁目15-2 電話082-276-2020		
自己評価作成日	平成28年4月15日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490200791-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490200791-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島市安佐北区口田南4-46-9
訪問調査日	平成28年4月27日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的な雰囲気大切にし一人一人の主体性を尊重したケアを目指しています。
-------------------------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホーム井口楽々苑は高台の閑静な住宅街にあり、共有スペースのリビングにつながるオープンデッキからは海が一望でき、住環境の良い場所に位置しています。開設して2年、苑では利用者が家庭に居るような生活の雰囲気を保ちながら、歌、体操、脳トレなど、日々楽しく過ごせるよう、一人ひとりの能力、人生観を尊重し、支援している。経験を重ねたホーム長、職員は認知症ケアの介護に熱心で工夫、努力がうかがえるグループホームです。
---

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎日のことば「松下幸之助の社訓」を朝礼時に唱和をしている。	毎日の朝礼で楽々苑の理念(自然、安心、快適)、社訓、松下幸之助の日めくりを唱和し、職員全員で実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	日常的な挨拶を通じて、地域の秋祭りには苑の駐車場まで神輿に来ていただき交流をしている。	町内会に入り回覧板を回して、地域と交流をしている。地域ボランティアの方の、ウクレレ、踊りの訪問、秋祭りには子供お神輿が苑に来て利用者は楽しまれている。ホーム長は認知症サポーター養成講座を地域の人や、中学校で開催する取り組みをしていく。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症サポーター養成講座を地域の人々を中心に開催する取り組みをしていく		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議でサービス状況について報告し意見交換を行っている。意見や要望は会議で報告しサービス向上に努めている。	運営推進会議は2ヶ月に1回、家族、町内会会長、副会長、地域住民代表、民生委員、包括支援センター職員、取締役、ホーム長、副ホーム長、看護師の出席で開かれている。ホームからは事故、活動、業務、家族、地域交流の報告をし、参加者からの意見を聞きそれらをサービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	市の開催する研修会に参加させていただく事によりサービス向上を目指している。	市からの情報を得て研修に参加している。法的な事は本部と市との連携で確認している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	マニュアルを置き日々のケアに身体拘束をしないケアに取り組みいつでも観覧できるようにしている。	身体拘束をしないケアの取り組みを研修で徹底している。玄関は昼間は開放しているが、夜は施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設内研修の実施・マニュアルを置きいつでも観覧できるよう虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	施設内研修し管理者は制度を理解しそれらを活用できるよう努めている。		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	契約時、利用者様の家族に十分に説明を行うと共にケアに対し意見要望を聞き説明している。		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	運営推進会議・面会・電話等で家族様からの意見を聞き職員に周知している。	家族の面会の際や電話で、意見や要望を聞き、家族会があり、その時の声は、その都度、職員は早急に運営に反映している。	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	ミーティング等で職員の声を聞いたり気づきがあれば反映している。	全員ミーティングで職員の意見、提案を聞き、ミーティングで話せなかった事はホーム長に相談している。	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	資格取得のため、研修に参加したり各自が向上心を持って働けるよう努めている。		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	施設内研修を行い担当職員が講師となり毎月研修を行っている。		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	同業者との交流会に参加したり職員研修の開催などに取組み実施に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス利用前には本人様と面談し思いや不安等を把握し見学・体験を用いられるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	契約前に聞き取り調査を行い、現状にて家族が困っていること・要望・不安に思われていることなど理解頂けるよう説明し良い関係を築けるよう努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人様・家族様に相談し最適な支援を受けられるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者様は我々の人生の先輩として尊重し学ばせて頂き家庭的な環境作りを始め安心して生活できるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	入居者様と施設が共に支えている意識を持ち一緒に人間関係の構築を目指している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人・知人いつでも来苑出来交流できる関係作りの支援に努めている。	家族や友人の訪問は多く、その時はゆっくりできるよう、お茶を出している。馴染みの関係の維持につとめている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食事・ティータイム時は職員も利用者様の輪に入り会話を持つようして利用者様同士のトラブルにもならないよう対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用契約が終了しても今までの生活環境、本人状況を情報提供し連携を心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時の持ち込みの荷物は家族様に任せている。本人様の意向は日々の関係の中で反映し取り組んでいる。	入居時家族からの生活歴、情報を聞き、日々の生活の中で言動をしっかり受け止め、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人様・家族様・前ケアマネ様から情報収集し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	朝礼で一人一人の一日の生活状況を報告し職員間で共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人様・家族様の希望や課題を変化すれば職員会議にて介護計画の検討をその都度行っている	利用者一人ひとりの状況を記録し、変化や、気づきを職員全員で共有し、家族、職員の意見をまとめ、家族の要望をメインに望まれる生活に必要な、サービスを取り入れた計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	一人一人の様子を細かく記録し気づき・対応等については職員間で情報共有し計画に活用できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	外出・面会の要望は家族様にて対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	ボランティア活動を取り入れ利用者様に安心して楽しんで生活して頂けるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	訪問診療により健康管理を主治医により行っており急変時・体調不良時も主治医と連携を取ながら適切な医療が受けられるよう支援している。	かかりつけ医の訪問診療で体調管理をしている。精神科の受診は家族対応とし、その他、皮膚科など専門医の往診も可能で、急変時でも安心した医療が受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	常勤看護師配置の上、日々の体調不良の方への相談・対応はもちろん、救急対応も即対応できるような体制にて適切な指示を受け支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供を行い連絡を取ったり面会に行ったり状況を把握し早期の退院に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所までできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期の在り方については契約時に説明を行い今後の方針について状態が変化をした際には、看護師職員・主治医・管理者交えカンファレンスを行い安心できるように対応している。	重度化や終末期については入居時にしっかりと説明している。状況変化があった場合は再度、家族、看護師、主治医、ホーム長で話し合い、その中で最良の支援が出来るように対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	利用者様の急変・事故発生時に備え社内研修を行い対応できるように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練を年に2回昼間想定・夜間想定での実施にて行っている。災害時は近隣の方に応援・協力を要請している。	年2回の避難訓練を、消防署指導の下に、日中、夜間想定で交互に実施している。訓練は通常の勤務体制で行われる。災害の際には近隣の方に協力をお願いしている。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	本人様の気持ちを大切に施設内掲示物は同意を頂き個人を尊重した対応に努めている。自尊心を傷つけない配慮、一人一人の尊重を守る配慮、プライバシーの確保に努めている。	利用者への言葉かけや、接する態度で傷つけたり、プライバシーを損なわないよう、配慮し、対応している。特にトイレ誘導の声掛けに注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	介護側の視点ではなく利用者様の思い・希望を表したりできるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個々に応じた生活リズムにより過ごされるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	2か月に1回訪問理容の方に来苑してもらい希望に合わせたカットをしていただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食欲や栄養を満たすだけでなくその人に喜んで頂けるよう雰囲気作りに努めテーブル拭きやトレイ拭きも可能な限り一緒に行う。	食事は食材業者の管理栄養士の献立で、旬の材料を取り入れている。年間の行事食も多く、おやつも行事に合わせて提供している。食材業者には利用者の食事に関する満足度アンケートや、要望を送っている。食事の準備、片付けの、手伝える方には職員と一緒に頑張ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人一人の食事摂取量・水分摂取量を把握をし状態に応じた食事形態を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	本人様の能力に応じた口腔ケアを実施。食後の口腔ケアを促し支援をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄パターンをつかみ尿意の無い方は定期的に誘導を行い不快感のないよう支援している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレで自然に行えるよう支援している。尿意のない方には、様子に気を配り、なるべく尊厳を守るよう声掛けをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘予防の為水分補給に心がけ体操に取り組み予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	夏季は週3回・冬季は週2回 一人一人の希望にて浴槽に浸られたりシャワー浴をしたり、時にはバスクリンを使用したりゆず湯・レモン湯にて気分転換している。	風呂の浴槽は浅めで入りやすくなっている。冬は週2回、夏は週3回、利用者の状況に合わせて、支援している。レモンや柚の香りのお湯で楽しめることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	生活リズムに応じ休息できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	確実に服用できるよう支援し薬剤師・医療機関との連携を図りアドバイスと指導を受けている。		

グループホーム井口・楽々苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人一人の役割、得意分野が発揮できる日々の生活を過ごしていく中で楽しんで頂けるよう支援している。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	遠方には外出していないが晴天時には苑庭に出て日光浴をしたり園芸をしたりしている。家族様の協力にて外出支援は行っている。	日常的に外出はしていないが天候の良い時、庭でお茶をしたり、園芸をしたりしている。主な外出は家族の協力で行われる。8月にはマツダスタジアムに野球観戦に出かけ、楽しめた。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	実施していない			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人様の希望にて支援をしている。			
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ホールには利用者様一人一人の作品を季節に応じ壁画として飾り生活感を取り入れ暮らしの場を整えている。懐メロ音楽を取り入れ居心地の良い空間に心がけ支援している。	リビングの壁には、季節を感じられる利用者の作品が飾られている。開放感のある室内は落ち着いてくつろげる和室ペースがあり、自由に過ごせる場になっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	利用者様同士が話をし楽しみが共有できるよう配慮している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人様が今までに使用されていたものを持参され落ち着いた過ごされるよう配慮している。	利用者が居室で安心して過ごせるよう、家庭で使われていた使い慣れた、生活用品、仏壇、洋服入れなどが持ち込まれている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ホール内での散歩・洗濯物たたみ・掃除などの手伝いをし、頂いたり趣味を生かした取り組みを実施している。			

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム井口・楽々苑

作成日 平成28年 4月27日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	44	便秘の予防と対応	水分を1500CCを目標にししっかり摂って頂き予防として体操を毎日行う	毎朝、申し送りの際確認して便秘予防に努める。	1年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。